

岩手県大槌町と連携と協力に関する協定を締結しました（2020/4/9）

テーマ：連携と協力

令和2年4月9日（木）、岩手県大槌町と東北大学災害科学国際研究所は、連携と協力に関する協定を締結しました。

岩手県大槌町では、東日本大震災によって1286名の尊い命が失われただけでなく、町長をはじめ39名の行政職員が犠牲となって行政機能が麻痺し、また、町の主要部や重要な漁村における生活基盤が壊滅的な被害を受けました。震災以降、同町は町民の安心・安全を守るため、復興土地区画整理、防災集団移転促進、災害公営住宅整備などの事業に鋭意取り組んできました。また、「海、食、郷土芸能、景観」の発信、中心市街地の活性化の基盤作り、移住定住策の推進、地域資源を活用した交流人口の拡充施策等、各分野において、取り組みを切れ目なく連動させていくこととしています。

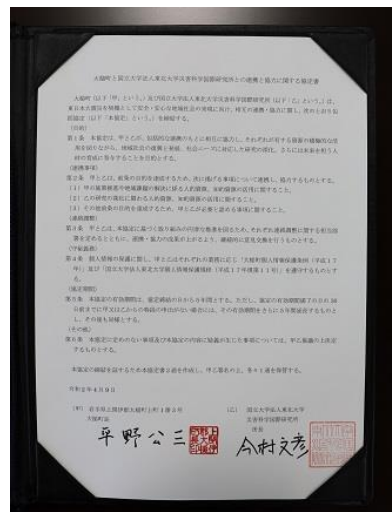
当研究所は、2012年4月の設立以来、自然災害の解明と、東日本大震災からの教訓に基づく防災・減災技術の再構築をビジョンに掲げ、文系・理系の垣根を越えて、様々な研究・実践活動を行ってきました。震災関連資料アーカイブ、地域防災計画策定のための検証活動、生活と健康に関する調査業務、科学的知見に基づいた防災教育支援など、防災・減災に関わる様々な試みを通じ、被災自治体の支援も行っています。

こうした互いの課題や社会的使命がある中で、東日本大震災からの復興に向け、防災・減災対策と、それを支える防災教育を効果的・実践的に進めていくことに関し、大槌町と当研究所との思いが一致しました。すでに2017年から、当研究所の柴山明寛 准教授（情報管理・社会連携部門）が大槌町文化交流センター「おしゃっち」の震災伝承展示室において、当研究所で収集した資料の提供や監修等を行う支援活動を始めており、また、2019年10月には今村文彦 所長（災害リスク研究部門）、小野田泰明 教授（情報管理・社会連携部門）らが、大槌町震災資料の担当者として記録保全について連携を開始していましたが、今般、本協定を締結することにより、一層効果的な連携を目指すこととなりました。

両者の協定により想定される取り組みは以下のとおりです。

- (1) 震災伝承記録のアーカイブとその活用
- (2) 震災と復興に関する資料の保存と発信・活用
- (3) 大槌町沿岸地域の居住人口及び交流人口に対する津波安全教育
- (4) 減災に寄与する研究、地域の発展の促進

今回の締結式は、新型コロナウイルス感染拡大を受け、郵送での協定締結となりました。



協定書

文責：福島愛子、写真：鈴木通江（広報室）